



日吉大社

近江国(現滋賀県)比叡山の東麓に鎮座する古社で、約2100年前の崇神天皇7年に創祀されたと伝わる。延喜式名神大社にて、中世には朝廷の特別の奉幣を受ける22社の1社に列せられた。境内に建ち並ぶ40社の筆頭社である西本宮には大己貴神をお祀り申し上げており、天智天皇の御代大津京遷都の際に奈良の三輪山から勧請された。その後平安京の鬼門に位置することから皇城鎮護の社として歴代天皇行幸の榮に預かり、比叡山延暦寺創建以降は天台宗の守護神としても崇められた。4月の山王祭は1200年以上の歴史を有し、7基の神輿が勇壮に渡御する。



くにたまの会

くにたまの会会報

【第7号】
発行／くにたまの会
島根県出雲市大社町杵築東195
出雲大社社務所内
TEL：0853-53-3100

会員の皆様方には、それぞれの奉務神社での日々のご奉仕の中で、大國主大神様の御神徳の宣揚・啓発にお努めの御事、何より存じ上げます。生きとし生けるものの幸福を結ばれる「国づくりの大神」として日本全国に広がる大神様に対する信仰の輪は、偏に皆様方のお務めのお蔭で感謝申し上げます。

昨年(2020年)の十月二十一日、皇位をお嗣ぎになられた天皇陛下が、そのご即位を国民、また諸外国に対し高らかに宣明される「即位礼正殿の儀」が執り行われました。そして、十一月十四日より十五日にかけて、天皇陛下は御一代一度の「大嘗祭」をご奉仕なされ、国家・国民の安寧や五穀豊穡を、ご祖先である天照大御神をはじめとする神々にご祈念をなされました。

先ずは、この国を挙げた重儀である「御即位御大典」がめでたく齎行されたことを祝寿申し上げる次第でございます。

さて、ご承知の通り、中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症は、国内はもとより地球規模で拡大を続けており、日本をはじめ世界ではその危機克服に一所懸命に取り組まれているところですが、収束も覚束ない世情事態となっております。

国内においては立皇嗣の礼の延期、東京オリンピックの開催延期、また島根県でも十七年ぶりに天皇皇后両陛下が行幸啓のご予定であった全国植樹祭の延期など、諸行事の延期や中止が相次いでおります。会員の皆様方それぞれの奉務神社におかれましても、感染拡大防止のために通年



ご挨拶

くにたまの会総裁
出雲大社宮司 千家尊祐

のよう祭事・行事のご奉仕が困難となり、ご苦勞をなさっている日々のことと存じます。医薬の神様でもいらつしやる「国づくりの大神」の御神徳をお祈り申し上げながら、幾たびもこうした疫厄の難事を乗り越えて来た先人たちの歴史のように、皆々が心を一つにして蘇ってまいりたいと存じます。

年に一度、会員の皆様方が一同に会しての集いで皆様方にお会いできることを楽しみにしておりますが、こうした感染症の緊急事態によりまず拡大防止に鑑み「令和2年度 くにたまの会」開催は止む無く中止を決定致しました。

私たちは「だいきくさま」にお仕える者として、本会の活動を通じて誇りある日本の伝統・文化とその精神の継承に努めているところです。現下は誠に困難な世情ではありますが、数々の困難を克服して神事をお治めなさる大神様の「和讃」の精神に神習い、困難にあっても、更なるご神縁の輪を広く結び、斯界の発展に寄与していくことが私たちの使命であります。

今後とも大神様への信仰を通じ、その御神徳の宣揚と啓発に力を合わせ共に精進をと念じ上げますとともに、本会にお心寄せをいただきますようお願い申し上げます。

末筆になりますが、聖上の安泰長久、御皇室並びに我が国の弥栄、会員の皆様方の奉務神社の益々のご隆昌、そして感染症の一日も早い鎮静化をご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

役員神社紹介

荒井神社

【鎮座地】

兵庫県高砂市荒井町千鳥
二丁目三三一二

【御祭神】

主神 大己貴神
相殿神 事代主神



御本殿

【御由緒】
第三十四代舒明天皇元年(六二九)、大己貴神を奉斎する出雲氏族が自己の偉大なる神の霊をいただきもちて、瀬戸の海伝いに進出して、荒井の浜を開拓し、ここに永住するため当社を創建したのがはじまりと伝わる。

平安時代には、この荒井地区が朝廷に年魚(鮎)を献上していたことから「御厨庄」と呼ばれ、神社古記録にも「播磨国御厨庄荒井神祠」と記される。

鎌倉時代以降は、武士の崇敬を受け、文明年間(一四六九-一四八七)播磨の太守赤松右京大夫政則により社殿は再建せられ、延宝九年(一六八一)には姫路藩主松平大和守直矩が当社に神田を献じた。

近世には、主要産業の塩田の興隆によって氏子地域は栄えたが、江戸末期から明治年間にかけての度重なる水害により塩業は衰退の一途を辿り、氏子戸数も激減する。当社もその影響を受け、社頭は暫し寂れるものの、明治なかばには大企業が次々と進出し相次いで工場が建設され、現在に至るまで一大工場地帯として賑わいが戻る。

昭和十八年、本殿以下の新しい社殿が造営され、旧本殿は境内社の美雄弥神社として荒井町の戦歿者を祀る社殿になっている。なお、旧本殿は萬治二年(一六五九)の棟札が残り、昭和六十三年に高砂市文化財に指定される。

昭和二十六年には、神話「イナバの白兔」に因み名付けられた神社付属の保育所、「白兔愛育園」を境内地に創設し、現在に至るまで地域福祉の向上に寄与している。
近年では、輪番で斎行される国恩祭ごとの記念事業として、昭和五十六年に参集殿を、平成三年には

神門を建設する。また、平成十四年に、神社所蔵の御神宝・古文書・古文物など数千点を保管・展示する設備として歴史資料館を建設し、地域文化の保存と発展のために貢献している。

【例大祭】

当社の秋の例大祭では、神幸祭(神輿渡御)の神事をはじめ、「仁輪加(にわか)太鼓」や豪華な装飾を施した太鼓屋台の宮入りや練り合わせの神賑行事で、二日間町内が熱気で溢れる。



秋祭り

その中でも特に「こしきとり神事」が重要である。この神事は、御神前に供えられる神饌を調理するための当社伝来の古儀であり、三升三合の新米を蒸し、美しく円柱形に整えられる。神職をはじめ奉仕者は、口に半紙をくわえて終始無言にて行う。また、当社には、氏子の中から祭礼

などの世話役をつとめる「頭家」を選ぶ制度が古くから残っており、この神事もその頭家によって奉仕されることから民俗学的にも貴重なものといえる。なお、女人禁制の神事である。

そして、神賑行事の最大の呼び物である「仁輪加太鼓」は、播州の郷土芸能として少なくとも江戸時代中期には始まったとされる。仁輪加とは「にわかにな組んだ劇」という意味があり、舞子に扮した少女の華麗な踊り、乗子の躍動感あふれる太鼓の撥さばき、担ぎ手の勇ましい掛声が一体となり、勇壮かつ優雅な寸劇を披露する。秋祭りでは二日間町内を練り、各所で芸披露を行う。毎年、異なる題目を用いるため、歌詞や太鼓屋台にのせる造り物なども変わり、観る者の目を飽きさせない。ちなみに造り物は、すべて神社青年会若衆の手作りである。平成二十二年、高砂市民俗文化財に指定される。



仁輪加太鼓

【URL】

<http://arai-jinja.com/>

会員神社紹介

白山本宮 加賀一宮
しらやまひめじんじや
白山比咩神社

【鎮座地】

石川県白山市三宮町二一〇五一

【御祭神】

白山比咩大神（菊理媛尊）

伊弉諾尊
伊弉冉尊

【御由緒】

当社は遠く神代の昔、霊峰白山を
ご神体山として生きとし生けるもの
の「いのち」の祖神である白山比咩大神
をお祀りしたことにじまります。

お社の創建は崇神天皇の7年（紀
元前九一年）と伝えられる延喜式内
の名社であります。古来「下白山」
と称えられた当社は現在「白山本宮」

「加賀一
宮」とし

て仰がれ
「白山さ
ん」とし
て広く親
しまれて
いる北陸
鎮護の大
社であり
ます。



白山 御前峰 山頂

旧社地は旧北陸鉄道加賀一ノ宮駅
前の古宮公園安久濤の森であります
が文明一二年（一四八〇年）大火に
よって四十有余の堂塔伽藍が悉く焼
失しましたので、その後は末社三宮
神社の境内である現在地に遷座し、
本宮鎮座の地と定めて今日に至った
ものであります。



拝殿

明治維新の後は「白山天領」を興
宮「下白山」を本宮とし「国幣中
社」として国家の殊遇を受けました
が、終戦後は全国に三〇〇〇有余を
数える白山神社の総本社として「白
山信仰の中心をなし、家内安全・延
命長寿・五穀豊穰・大漁満足・商売
繁盛・交通安全・縁結びなど広大な
るご神徳を仰がれております。

【大國主神社と大汝峰】

古来より本宮拝殿内の殿内末社と
して「大國主神社」をお祀りしてお
ります。

白山三峰の一つ大汝峰の頂上に鎮
まります大汝神社のご祭神は大己貴
命、即ち大國主大神であり、このよ
うな御由緒により、お祀りされたも
のと推察致しております。毎月一日、
十五日の両日、大國主神社の御神前
に献酒講員の方々より清酒がお供え
されます。



大汝峰



大國主神社常例祭

【例大祭について】

例大祭は五月六日で、もとは四月、
十一月の午の日を二季大祭としてい
たところから、その四月祭を撰って、
太陽暦改正の際に五月六日と定めら
れたものであります。旧来の大祭で
は重要文化財『三宮古記』によると、
末社を加えて五十四神を祀っていた
ことが記されています。この例大祭
の神饌の中には菅原道真公献供の古
例による梅枝餅をお供えしておりま
す。

【御本殿】

江戸時代の明和七年（二七七〇）
に、加賀藩十代藩主前田重教公の寄
進によって造営されました。造営は、
前田家御抱えの大工や地元職人の
手で行われました。

平成十九年（二〇〇六）に県指定
文化財に登録されました。



御本殿

会員神社紹介

薬菜神社

【鎮座地】

奥宮 宮城県加美郡加美町

味ヶ袋薬菜原二

里宮 宮城県加美郡加美町

上野目大宮七

【御祭神】

大己貴神

少彦名神

【御由緒】

天平九年(西暦七三七年)陸奥按察使兼鎮守將軍であつた大野東人が軍事輸送の為に色麻柵より出羽国に至る道路を開いた時、悪疫が流行し多くの兵士や人夫が斃れたので、將軍は薬菜山上に医薬の守護神『大己貴神』『少彦名神』を祀つて病気の鎮伏と工事の完成を祈願し無事工事を終えたと伝えられ、これが当社創建の事となつております。



薬菜神社

延暦二十三年(西暦八〇四年)、征夷大將軍坂上田村麿が東征の折、上野目大宮

に大宮大明神(現在の里宮)、本郷の地へ八王子一社を奉祀して東国安泰万民康楽を祈りました。爾来、山号を「薬菜山」と称し医薬の守護、病難退散、壽福招幸の守り神として近郷一帯はもちろん関東・北陸・関西地方より信仰されております。

現在薬菜山頂の奥宮と麓の里宮の二社殿となつており、五月の例祭では里宮より神職・役員・総代・篤志の人々が奥宮に登り、一晚篝火を燈し参籠します。翌朝、日の出とともに山上大祭が奉仕され麓からの参詣者を迎え、三日目には里宮において下山祭が執り行われ多くの参拝者で賑わいます。

町指定有形文化財である社門は正柱三本立の変形式で、三ツ脚門・七ツ脚門と呼ばれて



例祭(山上参籠に向かう奉仕者)

貞享元年(西暦一六八四年)、伊達家が深く信仰された鹽竈神社のお釜が枯渇し兇変の兆しと恐れ、当社が三輪流神楽(宮城県重要無形文化財指定)が藩の命を受け鹽竈神社神前に於いて七日間祈雨泰平の神楽を奉演し、満願の時慈雨の恵を得た賞として拝受したものです。

会員神社紹介

石宮神社

【御祭神】

島根県松江市宍道町白石六三八



拝殿正面

【御祭神】

大己貴命

【御由緒】

天平五年(七三三年)に記された「出雲國風土記」の中に宍道町の地名の由来になつた物語が書かれています。

現代風に訳すと左記の通りです。『大國主大神が愛犬を伴い出雲より南東の山にいる猪を狩りに出かけた。その愛犬と二頭の猪は石となり現在も南東の地に残っている。このことから、南東の地を六道(猪道)と呼ぶ。』



拝殿後方の犬石(御神体)



鳥居内両脇にお祀りされている大きな猪石2体

当社は御本殿が存在せず、大國主大神が御分霊を留められた犬石を玉垣が囲んでおります。拝殿の御扉を開くと、御神体が参拝された皆様を覗き込んで見えるように見え、鳥居の両脇に祀られている二体の猪石は、門番のように大神様をお守りして

るように感じます。全国的に大國主大神は「國造りの神」、「縁結びの神」として有名ですが、出雲の國及び風土記においては「狩獵の神」としての性格も大きく伝えられています。

この犬石・猪石の物語が地名起源の伝承として描かれていることは、「狩獵の神」としての偉大さを伝えるためだつたのではないかと思ひます。

くにたまの会とは

くにたまの会は、「だいこくさま」を奉斎する神社の全国組織で、御神徳の宣揚と斯道の発展、鎮座地域の活性化などを目的に下記の活動を行なっています。

より大きな御神縁が結ばれますよう、一社でも多くの神社にご加入戴きたく、ご案内申し上げます。

くにたまの会 新規入会神社 (令和2年7月1日現在) ※順不同

神社名	宮司名	鎮座地
有間神社	畑中一紀	兵庫県
鹿島神社	小汀泰之	鳥根県
毛津神社	福谷行眞	鳥根県
御碕神社	吉岡久	鳥根県
大美彌神社	林浩平	岡山県
野代神社	村上高義	鳥根県
愛宕神社	角河和幸	鳥根県
老松神社	齋藤周子	山口県
稲生神社	大巳至通	広島県
日御碕神社	小野高慶	鳥根県
持田神社	井上悟	鳥根県
諏訪神社	中村武比古	東京都
智伊神社	諏訪辺泰敬	鳥根県
八幡宮	篠田範雅	鳥根県
忌部神社	和田統彦	鳥根県

神社名	宮司名	鎮座地
益多嶺神社	田代公啓	福島県
堅磐神社	忌部正孝	鳥根県
佐香神社	常松秀紀	鳥根県
鏡神社	古瀬文則	鳥根県
森荒神社	永見和弘	鳥根県
龍御前神社	宮能壮充	鳥根県
居去神社	石原久芳	鳥根県
湯野神社 (大森神社)	石原肇	鳥根県
伊賀多氣神社	恩田友生	鳥根県
高濱神社	板木正久	鳥根県
高尾神社	阿部等	鳥根県
大谷神社	阿部等	鳥根県
新宮神社	古澤宏矩	鳥根県
内宮	伏見正	岡山県
奴奈弥神社	金津一男	鳥根県
多伎神社	後藤元興	鳥根県

令和2年7月1日現在 会員神社総数 281社

会員増加の動向と

今後の方針

昨年は会員拡充をより一層図ったことにより、新たに三十社余りが、新規会員神社としてご入会いただきました。

現在、会員神社の多い県もありませんが、まだ少ない県もあるようです。

「くにたまの会」支部結成についても各県にて進めていらっしゃるかと思えます。現在この様なご時世でございますので会員神社の皆様におかれましては、ご無理のない範囲内で地域や各県の垣根を越えて、友人・知人などあらゆるご縁のもと、新たな入会神社を募って戴きたくお願い申し上げます。

くにたまの会事務局



「くにたまの会」会員神社異動報告

●宮司就任

- 五十嵐義郎 (岐阜県 洲原神社)
- 中村 玲 (兵庫県 大塩天満宮)
- 上村 直道 (兵庫県 生島神社)
- 岡本 訓宙 (愛媛県 宇和津彦神社)
- 春日 親典 (島根県 由來八幡宮)
- 勝部 篤 (島根県 布宇神社)

●宮司退任

- 安田 昌代 (岐阜県 洲原神社)
- 上村 晃 (兵庫県 生島神社)
- 長曾我部相模 (愛媛県 宇和津彦神社)

「くにたまの会」会員神職帰幽

- 中村 要 (兵庫県 大塩天満宮)
- 景山 健 (島根県 由來八幡宮)
- 波多野安彦 (福岡県 八坂神社)
- 家原 國彦 (島根県 布宇神社)
- 三井 秀夫 (石川県 氣多大社)
- 今井 正昭 (長野県 科野大宮社)

右の方々のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表します。



※会員神社の異動報告等について記載漏れがございましたらお詫び申し上げます。慶弔のお知らせがございましたら「くにたまの会」事務局までお知らせ願います。会員の皆様の変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

心ひとつに感謝の気持ち

大国主大神は農業、商業の神様、更には医療・医薬の道をお広めになった神様であります。『古事記』には有名な「因幡の白兔」の話が載っております。

大国主大神が悪事を論じた上で、傷ついた兔を、差別なく、正しい治療を施します。この医療・医薬の道をお広めになった大神様の考えは、現在にまで通じております。

医療従事者や関係者の方々の懸命の努力により、新型コロナウイルス感染者への差別ない、正しい医療によって、感染者数が抑えられ、自粛規制が解かれました。それと共に農業や商業を生業とする方々は、休業を強いられて将来を憂う状況から徐々に、営業を再開し、今までの日常を取り戻そうと懸命に努力している事と思いますが、未だに終息をしていない状況であります。

この未曾有の困難に対して、必死に闘っている医療関係者の皆様、懸命に日常を取り戻そうとする皆様と共に、この「くにたまの会」もその大神様のご神徳の宣揚と斯道発展に努め、日本をはじめ各地域の人々へ大神様の大御恵を戴けるように、一丸となってお役目を果たさねばなりません。我々は目に見えない御蔭を戴いていることを決して忘れず、心をひとつに、日々感謝して過ごして参ります。

「くにたまの会」会報ご寄稿のお願い

皆様よりお寄せ頂きました写真や記事・情報をホームページや会報に掲載させて頂きます。

就きましては、遷座祭・式年祭・特殊神事・地域の伝統行事・身近な出来事等どんな事でも結構でございますので、ご寄稿を賜りますようお願い申し上げます。

送り先

〒六九九一〇七〇一

島根県出雲市大社町杵築東一九五

出雲大社社務所内

「くにたまの会事務局」まで

電話 〇八五三一五二二一〇〇

メール johoh@izumoooyashiro.or.jp

※写真を添えてお寄せ下さい。